

THE MATHEMATICAL SOCIETY OF JAPAN
日本数学会

Introduction.

$X \rightarrow S$ be a projective and flat morphism of noetherian schemes. The functor $\mathrm{Splcpx}_{X/S} : (\mathrm{Sch}/S) \rightarrow (\mathrm{Sets})$ defined by

$$\mathrm{Splcpx}_{X/S}(T) = \left\{ E \in D^b(\mathrm{Coh}(X \times_S T)) \mid \begin{array}{l} \text{for any geometric point } t \text{ of } T, E(t) := \\ E \otimes^L k(t) \text{ is a bounded complex and} \\ \mathrm{Ext}^i(E(t), E(t)) \cong \begin{cases} k(t) & \text{if } i = 0 \\ 0 & \text{if } i = -1 \end{cases} \end{array} \right\}$$

$E \sim E'$ if there is a line bundle L on T such that $E \cong E' \otimes L$ in $D^b(\mathrm{Coh}(X \times_S T))$. We denote the étale sheafification of $\mathrm{Splcpx}_{X/S}$ by $\mathrm{Splcpx}_{X/S}^{\acute{e}t}$. [4] is that $\mathrm{Splcpx}_{X/S}^{\acute{e}t}$ is an algebraic space over S . M. Lieblich in [7] treated the case when $X \rightarrow S$ is a proper flat morphism and the problem on the construction of the moduli space of objects in this category is solved in some sense. However, the moduli space is not separated and it is not a good space in geometric sense. So we consider a projective moduli space (or quasi-projective moduli space via étale sheafification) as a Zariski open set of $\mathrm{Splcpx}_{X/S}^{\acute{e}t}$ such as the moduli space of vector bundles.

This problem is also motivated by Fourier-Mukai transform. Let

Mathematics Subject Classification. Primary 14D20, 18E30.

Keywords and Phrases. moduli, triangulated category.

This author is partly supported by Grant-in-Aid for Scientific Research (Wakate-

<http://mathsoc.jp/>



日本数学会 理事長
宮岡 洋一

President
Yoichi Miyaoka

あらゆる学問の中でも、数学は最古の歴史を持つものの一つです。実用の学としての数学はエジプト・メソポタミア時代から5000年、厳密な論理体系として数学でもピタゴラス学派以来2500年の歴史を有します。また数学には、他のどの学問にもない特権的性格があります。論理的に正しく証明された数学の命題は永遠に正しい。これは数学だけが持っている特性です。しかも抽象的な論理操作のみによって得られた数学の諸結果が、しばしば現実世界を正しく記述し、結果として社会の役に立っている。あらためて考えてみれば、これは実に不可解かつ奇跡的なことではないでしょうか。このような数学を自分が選んだことに数学者は誇りを持ち、自信をもって研究に邁進していただきたいと思ひます。日本数学会も、研究会や出版・顕彰事業を通じて数学研究の発展に協力して参ります。

しかし同時に、数学者も社会の一員でありそれに伴う責任を負うことを時折自覚することも、お願いしたいのです。といっても、社会に有用な数学をやれといった短絡的主張をするつもりは毛頭ありません。研究が直接社会に役立つのであればそれに越したことはありませんが、教育活動などによって数学的思考とその意義を広く伝えることも、劣らず重要なことです。また社会において数学的に誤った議論が行われている場合、そのつど正していくことも数学者の責務でありましょう。

社会の中の日本数学会

ていない、あるいは破滅的な結果に至るであろう事態を故意あるいは惰性から放置している、などとといった信じられない現実を、目の当たりにしました。

こうした状況を根本から解決できるのは、国民ひとりひとりの健全な良識だけです。しかし健全な良識というものは、先天的に備わっているわけではありません。家庭や学校、職場、メディア、といったさまざまな場における教育の結果、徐々に形成されるものです。

倫理・歴史・経済といった文系的要素を伝統的の中核としてきた国民の良識ですが、高度な技術が随所に使われている現代社会においては、そのうち相当な部分は、基礎的な科学知識と、それを実地へ応用する際に必要な数学的思考とが占めるべきではないでしょうか。ところが残念ながら、今日の日本では、社会の指導者や一般国民がもっている科学知識や数学的思考力が決して十分なものでなかったことが、露呈してしまいました。その中でも特に、個々の知識やデータを統合して正しい判断を引き出す部分—すなわち数学的思考力が本質をなす部分—に大きな問題があるように見えます。

いいかげんな情報に一喜一憂したり、情報操作に簡単にだまされたりすることなく、複雑な現代社会を賢く生きるためのスキルとして、数学的思考をできるだけ多くの国民が身につけてほしいと考えます。日本数学会は、数学者集団として社会に対する必要な発言を行っていくとともに、市民講演会や数学通信といったさまざまなチャンネルを通じて数学とその教育の重要性を広く訴えていくつもりです。皆様のご支援をお願いいたします。

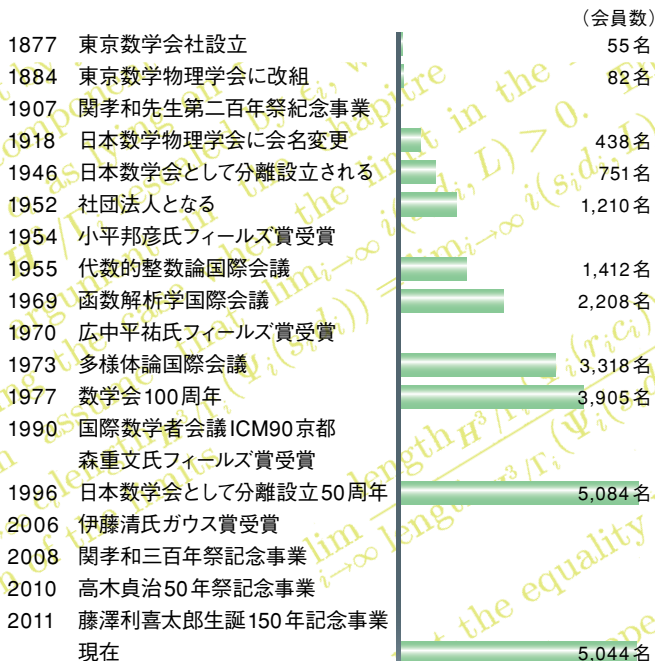
日本数学会のあゆみ

江戸時代に日本で独自の発展をした和算の実力を背景に、日本人は明治時代の初めに新しい数学を容易に吸収し消化したことが知られています。

日本数学会の前身である東京数学会社の創立者達は、時代の息吹の中で諸学の基礎としての数学が重要であることを認識し、欧風の数学の導入に努力しました。それから130年、日本における数学研究は目覚ましく発展し、3人のフィールズ賞受賞者および第1回ガウス賞受賞者を輩出するなど、今日では確固とした国際的評価が確立しています。



故小平邦彦氏 広中平祐氏 森重文氏 故伊藤清氏



刊行物



① 「数学」

「数学」は、日本数学会が設立された翌年1947年4月から毎年4回発行されている邦文誌です。主に日本数学会会員による、数学に関する論説、企画記事、書評、学界ニュースなどを掲載しています。日本数学会会員には無償配布されていますが、会員でない方は岩波書店刊行のものを購入できます。論説の記事は、専門外の人々にも楽しめ、理解できることを目的にした解説記事として書かれており、独立行政法人科学技術振興機構 (JST) によって電子化・無償公開されています。この論説の多くは、英訳され、アメリカ数学会から「Sugaku Expositions」という雑誌名で発行されています。

電子版については下記 URL を参照下さい。

http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=sugaku1947

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/sugaku/-char/ja/>

※電子版の作成および公開は岩波書店の承諾を得て行っています。

② 「数学通信」

「数学通信」は日本数学会創立50周年を機に1996年に創刊された会員向けの季刊情報誌です。定期的な記事としては、会報のほか、巻頭言、数学会が主催した市民講演会等の記録、授賞報告、委員会・懇談会報告、会員ニュース、数学教室だより、支部・分科会便り、書評、公募ニュースなどの欄があります。また、その時々会員にとって有益な話題を特集記事として取り上げています。このように「数学通信」は、会員への情報提供あるいは会員相互の情報交換の場としての役割を果たしています。

③ 「Journal of the Mathematical Society of Japan」

日本数学会 英文誌 Journal of the Mathematical Society of Japan (JMSJ) は、1948年に創刊された純粋数学の総合誌で、質の高い国際学術誌として数学コミュニティに貢献しています。JMSJ は日本数学会の機関誌ですが、会員・非会員を問わず国内外から投稿される研究論文を、第一線の専門家による厳格な査読を経て掲載しており、わが国を代表する数学誌として国際的に広く認知されています。季刊で、年4回会員に配布されます。オンライン公開はProject Euclid およびJ-STAGEで行っています。

④ 「Advanced Studies in Pure Mathematics」

Advanced Studies in Pure Mathematics (ASPM) は1983年に創刊され、日本数学会によって主催された国際研究集会など重要な研究集会の報告論文集として、現在、日本数学会によって編集、刊行されています。ASPMは、国際研究集会で発表された研究成果に関する研究論文のみならず、理論の創設者によって著わされたサーベ的な論文なども掲載しており、これから研究を始める若手研究者や、そのテーマの最新の研究成果に関心のある他分野の専門家にとっても、貴重なレファランズとなっています。海外では、アメリカ数学会とWorld Scientific Publishing社によっても販売されており、2011年6月の時点で60巻が刊行されています。

⑤ 「Japanese Journal of Mathematics」

1924年創刊のJapanese Journal of Mathematics (JJM; 日本数学誌) は、継続されて刊行されている日本の数学英文誌の中で最古のもので、日本数学会は、JJMの第3シリーズの創刊にあたり、JJMを「創造性に満ちた研究総説に特化した、権威ある学術誌」として位置づけ、2006年4月に刊行を開始いたしました。高木レクチャーで講演された内容を含め、JJMに投稿された研究総説論文は専門家によって査読され、その後掲載が決定されます。JJMの出版は日本数学会とSpringer社の協力で行なわれています。なお、第1,2シリーズ(1924-1974, 1975-2005)はJSTのJournal@rchiveによって電子化・無償公開されています。

⑥ 「MSJ Memoirs・数学メモアール」

数学メモアールには、英文と和文と、二つのシリーズがあります。英文シリーズでは、大学院テキストに使用するための講義録や、またまった一つのテーマについての長編研究論文を刊行しています。和文メモアールは、大学院生をはじめとする若い研究者に、数学の新しい潮流をわかりやすく紹介するモノグラフです。両シリーズとも、純粋数学・応用数学全般を取り扱います。英文シリーズは海外ではWorld Scientific Publishingによって販売されています。

学 術 的 会 合

高木レクチャー

高木貞治先生（1875-1960）のお名前を冠した「高木レクチャー」が、2006年に創設されました。

「高木レクチャー」は、毎年、世界から卓越した数学者を日本に招き、専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象とし、創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていた

だき、日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています。

高木レクチャーのブックレットは当日に配布され、それをもとに執筆された研究総説論文が、査読を経た後、JJMに掲載されます。



Prof. P. Malliavin
第3回高木レクチャー



Prof. A. Connes
第8回高木レクチャー

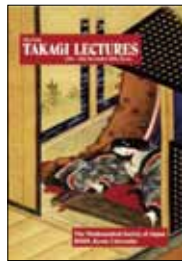


Prof. S. Smale
第1回高木レクチャー



JJM(日本数学誌)のロゴ

このロゴは2005年のJJM存続の危機のときに、当時の理事であった小林俊行氏が、大正時代から連続と続くJJMの伝統を尊重し、さらに、日本から新しい数学を発信するという願いをこめてデザインしたものです。JJMの文字でかたどった富士山は日本発信を象徴しています。



高木ブックレット

年会・秋季総合分科会

毎年、春と秋に日本数学会は大会を開きます。約1500名の数学者が集い、研究の発表や討論を行うものです。大会では、日本数学会賞春季賞、同秋季賞、同建部賢弘賞、関孝和賞、出版賞などの受賞者の発表や授賞式が行われ、総合講演・企画特別講演・各分科会の特別講演など、数学の動きを知る上で欠かせない重要な講演も行われます。大会の際には、市民を対象とする、数学の啓蒙的講演会「市民講演会」や、数学と数学教育の役割について意見を交換する「シンポジウム」が開かれます。

日本数学会季期研究所 (MSJ-SI)

日本数学会は、国際交流や国際研究集会の活動を行っています。

このような活動の一環として、第一線の国外の研究者を招いて日本数学会国際研究集会 (MSJ-IRI) を2006年まで年1回開催しました。2008年からは、これを拡張して発展的に引き継ぎ、日本数学会季期研究所 (MSJ-SI) を開催しています。

とくに、アジアの中の日本という視点から、アジア諸国の数学者との関係を重視し、積極的な交流を推進しています。



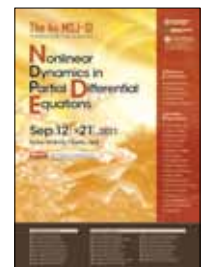
第3回MSJ-SI集合写真(2010年10月27日)



第3回MSJ-SI 2010年10月25日～10月30日
Development of Galois-Teichmüller Theory and Anabelian Geometry 京都大学

第4回MSJ-SI 2011年9月12日～9月21日
Nonlinear Dynamics in Partial Differential Equations 九州大学

第5回MSJ-SI 2012年7月17日～7月27日 Schubert Calculus 大阪市立大学



市民との接点

市民講演会

日本数学会では、春の年会と秋季総合分科会の際、会場校の近くで、高校生、大学生、教師、会社員など一般の市民の方に、数学の楽しさを実感していただくための、講演会「市民講演会」を開催しています。

以下のウェブページより、過去の講演の講演記録とビデオが利用できます。

URL <http://mathsoc.jp/outreach/shimin-index.html>

都合で利用可能でないものもあります。

日本数学会 市民講演会

検索



清水達雄氏「藤澤利喜太郎生誕150年 五港育ち、「生命保険論」と「総選挙読本」」

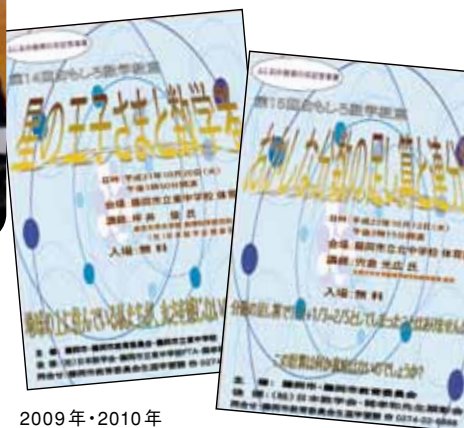


藤岡おもしろ数学教室

関孝和にゆかりのある群馬県藤岡市と日本数学会とは、1994年度の日本数学会関孝和賞創設以来交流が続いています。その一環として、当地の中学生を対象とした講演会「藤岡おもしろ数学教室」を毎年1回開催しており、数学会からは講師を派遣しています。



2009年講師
坪井俊氏



2009年・2010年
藤岡おもしろ数学教室



2010年講師
穴倉光広氏

出前授業

日本数学会では、多くの子供たちに数学を学ぶ楽しさを伝えるために、2004年度より会員を小中高校に派遣する事業を行っています。会員に対して、そのための講師派遣リストへの登録の依頼も継続的に行っています。この事業では、数学会への依頼があれば、出来る限り条件にあう会員の派遣をお世話します。依頼は日本数学会事務局へお願いします。

顕彰事業

$$\mathcal{P}^+(D^2u) + \mu(x)|Du| = f(x) \quad \text{in } \Omega,$$

$\subset \mathbb{R}^n$, and $\mu \in L^q(\Omega)$, $f \in L^p(\Omega)$ for some p, q . The Pucci operator is defined by $\mathcal{P}^+(X) = \max\{-\text{tr}(AX) \mid A \in S^n, \lambda I \leq A \leq \Lambda I\}$ for the set of $n \times n$ symmetric matrices, and $0 < \lambda \leq \Lambda$ are constants. The ellipticity constants will be fixed throughout this paper. The Pucci operator $\mathcal{P}^-(X) := -\mathcal{P}^+(-X)$ for $X \in S^n$.

Wang and Xing showed in [21] that the weak Harnack inequality holds for solutions of linear PDE when the gradient coefficient is in $L^{2n}(\Omega)$.

日本数学会賞 春季賞・秋季賞

日本数学会は1973年に、故彌永昌吉氏からの寄付金を基金として「日本数学会彌永賞」を設け、1987年まで毎年1名、重要な研究成果をあげた当学会の若手研究者に賞を授与してきました。1987年秋に、故秋月康夫氏の御遺族からの寄付金とその他の寄付金を加えて新たに、日本数学会賞を創立し、従来の彌永賞の趣旨を継承する「春季賞」と、特に優れた業績をあげた当学会の研究者に授与する「秋季賞」を設けました。

その後、故木村俊房氏、故松村英之氏、故丸山滋彌氏、故加藤敏夫氏の御遺族からの寄付金とその他の寄付金も新たに加わっています。



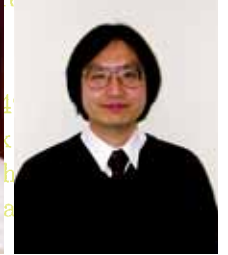
●2009年度
秋季賞受賞者
谷島賢二氏
「波動作用素の
有界性の研究」



●2010年度
春季賞受賞者
伊山修氏
「多元環および
Cohen-Macaulay加群の
表現に関する研究」



●2010年度
秋季賞受賞者
泉正己氏
「作用素環と
非可換解析学」



●2011年度
春季賞受賞者
志甫淳氏
「数論幾何学における
p進コホモロジーと
p進基本群の研究」

代数学賞

広い意味での代数学の発展に貢献した研究者に授与される賞です。



●2010年度受賞者(左から)
都築暢夫氏、寺尾宏明氏



●2011年度受賞者
石井志保子氏



幾何学賞

幾何学賞は、1987年に幾何学研究者有志からの寄付金を基金として設けられたもので、広い意味での幾何学の発展へ貢献した研究者に授与される賞です。



●2009年度受賞者(左から)
木田良才氏、本田公氏



●2010年度受賞者(左から)
芥川和雄氏、本多宣博氏



●2009年度受賞者(左から)
相川弘明氏、小川卓克氏、西谷達雄氏



●2010年度受賞者(左から)
中村周氏、長井英生氏、永井敏隆氏



日本数学会賞 建部賢弘特別賞／奨励賞

建部賢弘(1664-1739)は、関孝和の高弟で、独自で三角関数表を作成した人物です。1996年の50周年を記念し、日本数学会建部賢弘賞が創設されました。建部賢弘特別賞・奨励賞の2つの賞に分けられ、特別賞は若くして優れた業績をあげられた人の顕彰を、奨励賞は優れた業績で数学研究を始めた若い人達の奨励をそれぞれ目的として制定されたものです。



●2009年度受賞者
(2列目左から)
澤野嘉宏氏(奨励賞)
田中 心氏(奨励賞)
三浦英之氏(奨励賞)
安井弘一氏(奨励賞)
(1列目左から)
入谷 寛氏(特別賞)
下村明洋氏(特別賞)
福島竜輝氏(特別賞)
岸本 展氏(奨励賞)
佐々木浩宣氏(奨励賞)



●2010年度受賞者
(左から)
高橋篤史氏(特別賞)
宮本安人氏(特別賞)
佐々田禎子氏(奨励賞)
中岡宏行氏(奨励賞)
深澤正彰氏(奨励賞)
(右)
小林健太氏(特別賞)

藤澤利喜太郎 生誕150年祭

日本数学会関孝和賞

関孝和(? -1708)は、関流数学の創始者であり、鎖国時代に日本独自の数学を発達させた人物です。日本数学会関孝和賞は、個人または団体を対象として長年にわたり数学の研究業績以外の功績によって数学の発展に寄与し、それを通して学術文化の向上に特に顕著な貢献をした個人または団体に対しこれを授与するものです。



関孝和にゆかりのある藤岡市から、賞状と関孝和のブロンズ像が贈られます。



- これまでの受賞者(左から)
- 1995年 故 谷口豊三郎氏
- 1996年 Prof. F. Hirzebruch
- 2006年 The Japan-U.S. Mathematics Institute
- 2007年 Institut des Hautes Études Scientifiques



出版賞

2004年度には「出版賞」が設けられました。この賞は著作活動により数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた個人または団体を顕彰する賞です。



- 2010年度 出版賞受賞(左から)
- 室井和男氏「バビロニアの数学」
- 春日真人氏及び取材班
- 東北大学附属図書館「東北大学和算ポータル」



- 2011年度出版賞受賞(左から)
- 勤勉出版「関流和算書大成」
- 小学館「日常にひそむ数理解線 DVD book」

JMSJ 論文賞

JMSJ論文賞(The JMSJ Outstanding Paper Prize)は、授賞年前年のJournal of the Mathematical Society of Japanに掲載された論文のうち、特に優れたもの(3篇以内)の著者に贈られます。この賞は、若い研究者への励みとなるとともにJournal of the Mathematical Society of Japanの学術水準と国際的知名度の向上に資することを願って2010年に新設され、原則として春の年会時に授賞式を行います。

- 2010年度JMSJ論文賞受賞
- 小池茂昭氏及びAndrzej Świąch氏
「Weak Harnack inequality for fully nonlinear uniformly elliptic PDE with unbounded ingredients」
- 大鹿健一氏「Constructing geometrically infinite groups on boundaries of deformation spaces」
- 2011年度JMSJ論文賞受賞
- 稲場道明氏「Moduli of stable objects in a triangulated category」

藤澤利喜太郎は、近代日本数学界の研究・教育・社会貢献の全ての面の礎を築いた数学者です。彼の息子の回想「何故数学を専門にしたのかと聞いたときに、即座に日本人にとって数学と物理学とは非常にむずかしい上に、之が分らなければ日本は世界的に発展出来ないから御国のためにやったのだと答えてくれた。」とあるように、国家のために数学を専門にすることを決意し、精力的に数学界のために尽くしました。

藤澤は1861年生まれで、2011年は生誕150年の記念すべき年にあたります。そこで、日本数学会理事会は2011年を藤澤利喜太郎生誕150年祭の年として、藤澤の事績を振り返り、当時の数学および数学者が果たした存在意義を再確認したいと考えました。

記念に企画した市民講演会は東日本大震災の影響で、予定していた3月19日には行えませんでした。日本科学史学会の年総会日程に合わせて2011年5月28日に共催として開催されました。藤澤は大正12年9月1日の関東大地震によって引き起こされた火災により家財をすべて失いましたが、復興に当たっては当時の東京市の縮小、地方の多数の小都市へ分散を提言するなどもしています。晩年は政治家としても活躍しました。

近代日本にあって、菊池大麓がまず西洋流の数学教育を導入したのに対して、藤澤は数学関係では初めて本格的な研究論文を執筆しドイツで理学博士となり、ドイツ流のセミナー方式を数学研究のために導入し、高木貞治など後進を育成しました。中等教育のために教科書を執筆し、教員講習も行いました。また、国体護持のためには、生命保険制度が必要と説き、配当制度も提言し、また、簡易保険の導入にも尽力しました。さらに、第一回普通選挙の統計的な分析も行い選挙制度への提言もしました。

●藤澤利喜太郎先生年譜●

- 1861(文久元年) 新潟生
- 1874(明治7年) 東京英語学校に入学
- 1876(明治9年) 東京開成学校に入学
- 1878(明治11年) 東京大学理学部に入學(物理学、数学及び天文学を修める)
- 1882(明治15年) 理学士試験に合格し理学士、東京大学予備門判任教諭
- 1883(明治16年) 夏、留学、始めはロンドン大学、12月の終りにベルリン大学に入学し、翌年夏季の終まで修業
- 1884(明治17年) シュトラスブルグ(Strasbourg)大学に移り数学の研究を継続
- 1886(明治19年) 博士試験通過、学位論文(原文はドイツ語)
「熱伝動論に現れる、超越方程式の根により展開される無限級数について」その後再びベルリン大学で修業
- 1887(明治20年) 5月帰国、6月(帝国大学)理学教授就任、解析学の講義担当
- 1890(明治23年) 尋常中学校教員講習会委員
- 1891(明治24年) 理学博士(総長推薦)、教員検定試験委員(大正10年迄)
- 1896(明治29年) 法科大学において統計学を講義
- 1897(明治30年) 尋常中学校教科細目調査委員(明治41年4月迄)
- 1899(明治32年) 理学文書編纂委員(明治44年迄)
- 1900(明治33年) 第2回万国数学会議(パリ)に出席
「Note on the mathematics of the old Japanese school」という題で講演、帰国後、ヒルベルトの23の問題など報告を書く
- 1906(明治39年) 帝国学士院会員
- 1910(明治43年) 数学教科調査委員会会長
- 1911(明治44年) 郵便保険年金の仕事に従事
- 1912(明治45年) 帝国学士院代表としてロンドン＝ロイヤル＝ソサイエティー創立250年祝賀式に参列、第5回万国数学会議(ケンブリッジ)に出席
- 1919(大正8年) 東京帝国大学理学部長事務取扱を命ぜられる
東京帝国大学理学部において数理統計学を講義
- 1920(大正9年) 勲一等瑞宝章を受章、学術研究会議会員、中央統計委員会委員
- 1921(大正10年) 東京帝国大学退職(翌年3月まで講師として講義継続)
- 1924(大正13年) 文政審議会委員
- 1925(大正14年) 帝国学士院代表として貴族院議員に選任せられる
- 1932(昭和7年) 帝国学士院代表として貴族院議員に再選、学術振興会理事、法制審議会臨時委員
- 1933(昭和8年) 12月23日、73歳で逝去



日本数学会の概要

本学会の正会員は数学の研究者ばかりではなく、教育者、学生などの数学に興味を持つ方々です。また、賛助会員の制度があり、本学会の事業に援助をして下さる法人と個人に加入していただいております。2011年度の会費は次の通りです。

正会員会費…年額18,000円

賛助会員会費…一口年額30,000円

大学に在籍する学生会員及び高齢の会員には会費割引制度があります。

高齢会員(70歳以上・在会10年以上)…年額12,000円

学生会員(在学証明書送付者)…年額9,000円

2005年4月から在会30年以上で年齢75歳以上の会員に対し会費を免除する名誉会員制度が始まりました。

会員には、邦文誌「数学」(季刊)「数学通信」(季刊)、欧文誌Journal of the Mathematical Society of Japan(季刊)を配布しています。(ただし名誉会員には「数学通信」と欧文誌JMSJの電子版のみ)

外国数学会の交換会費制度があり、現在、アメリカ数学会、フランス数学会、ニュージーランド数学会、韓国数学会、ロンドン数学会、ドイツ数学会、オーストラリア数学会、スペイン数学会、チュニジア数学会、中華民国数学会、クロアチア数学会と交換協定を結んでいます。

入会手続きについては、本会またはお近くの大学の数学教室でおたずねください。

名称 社団法人/日本数学会(The Mathematical Society of Japan)

事務局 〒110-0016 東京都台東区台東1-34-8 tel.03-3835-3483
(34-8, Taito 1-chome Taito-ku Tokyo 110-0016, Japan)

URL <http://mathsoc.jp/>

目的 数学の研究を盛んにし、またその普及をはかり、関係諸部面とも協力して学術文化の向上発展に寄与することを目的とする

- 事業
1. 学術的会合の開催
 2. 機関誌および図書の刊行
 3. 数学に関する図書および雑誌の収集整備
 4. その他目的を達成するために必要な事業

学術的会合の予定

2011年度秋季総合分科会
2011年9月28日(水)～10月1日(土)
信州大学

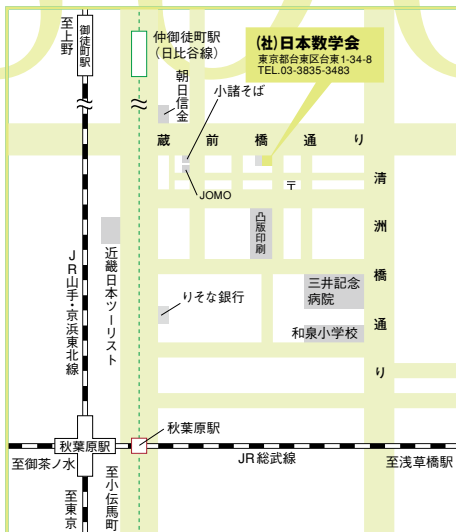
2012年度秋季総合分科会
2012年9月17日(月)～9月21日(金)
九州大学

2012年度年会
2012年3月26日(月)～3月29日(木)
東京理科大学

2012年度高木レクチャー 春と秋に開催予定

2013年度年会 京都大学

2013年度秋季総合分科会 愛媛大学



事務局所在地

蔵前橋通り南側で、台東一丁目交差点から、鳥越一丁目の間にあります。

● 交通アクセス

JR線

秋葉原駅から徒歩約10分

御徒町駅から徒歩約15分

東京メトロ(旧営団地下鉄線)

日比谷線秋葉原駅から徒歩約8分

日比谷線御徒町駅から徒歩約10分

銀座線末広町駅から徒歩約8分

(末広町駅から蔵前橋通りを東の鳥越神社の方向に)

都営地下鉄

大江戸線新御徒町駅から徒歩約7～8分

(駅から南へ竹町公園を経て蔵前橋通りへ)

日本数学会では、理事会を中心に日本における数学にかかわる諸問題を検討し、時に応じ声明を出しています。数学会が出した声明は上記の数学会サイト内のURL(<http://mathsoc.jp/proclaim/>)から参照できます。